

2016年度 第19回 関西まちづくり賞 表彰式を開催

日本都市計画学会関西支部では、1998年度から「関西まちづくり賞」を設け、まちづくり、都市計画の進歩・発展に著しい貢献をした優れた成果又は実績を表彰しています。2016年度は、2つのプロジェクトを表彰しました。

表彰式は、2016年4月8日（土）、関西支部総会に引き続いて開催し、表彰状及び楯の授与の後、受賞者によるプレゼンテーションと、パネルディスカッションを行いました。



受賞のみなさんと支部長、関西まちづくり賞委員会委員

<第19回 関西まちづくり賞 表彰プロジェクトの紹介>

地域協議会による地域価値を高める北浜テラスの運営・設置（大阪府大阪市）

受賞者：北浜水辺協議会、NPO法人もうひとつの旅クラブ、NPO法人水辺のまち再生プロジェクト、omp川床研究会

本活動は、大阪市中心部の北浜地区の土佐堀川左岸（河川区域）において、沿川地権者等で構成する協議会が包括的に河川占用許可を取得し、沿川ビルオーナーに川床（テラス）の設置を誘導することで、賑わいや良好な景観の創出、ひいては地域ブランドの形成を図ろうとするものです。

河川区域内に常設のテラスを設置するためには、河川管理者から占用許可を受ける必要がありますが、治水等の河川本来の機能が十分に担保されることや、公共性の高いものが優先されるなどの基準があり、一般的に民間団体が許可を得て営業活動を行うことは困難です。しかし本活動においては、地域の地権者・テナント・自治会等で構成される北浜水辺協議会が、治水機能の維持や良好な景観形成を図る観点からデザインや構造の基準を定めたほか、原状回復リスクを



受賞おめでとうございます！



活動のプレゼンテーション

担保する保証金制度、テラスを半公共空間とするための運用方針等を整理し、地域の意思をまとめて責任を持った管理運営ができることを示すことにより、任意の地元協議会としては全国で初めての包括的占用許可を受けて、水辺空間を活かした地域活性化が行われています。

活動の実現に当たっては、協議会が意欲的に取り組まれたことが、河川管理者である大阪府、特定行政庁である大阪市の柔軟な対応を引き出したものと考えられます。

2009年にテラスを設置したのは3件に過ぎませんでした。2015年には12件に増加、利用者数は12,000人余りに達しました。また、「水都大阪2009」事業や大阪市による対岸の中之島公園の再整備などとも相乗効果を生むなど、着実な成果が見られます。

これまでに多くの他都市関係者が協議会を訪れており、本活動を参考にした様々な試みが全国各地で広がりを見せています。

天橋立地区まちなみ景観整備と賑わいづくり

官民協働での景観整備・夜間景観整備・賑わいづくり活動（京都府宮津市）

受賞者：「海の京都」天橋立地区協議会（文珠町づくり委員会、府中「海の京都」推進協議会、公益社団法人天橋立観光協会、宮津天橋立観光旅館協同組合、宮津商工会議所、丹後海陸交通株式会社、WILLER TRAINS株式会社、宮津市）、京都造形芸術大学教授前田博、株式会社LEM空間工房、京都府

本活動は、京都府による「海の京都」事業と連携し、住民、地域団体、専門家の多主体の協働によって、歴史ある天橋立地区らしい景観整備と情緒ある賑わい創出を目指しています。具体的には、「文珠メソッド」と呼ばれるまちづくり協定の締結、駅前道路整備、智恩寺山門のライトアップ、天橋立駅の改修などのハード・ソフト両面のまちづくりが実施されています。

平成25年度のまちづくり協定「文珠メソッド」の締結以降、3年半の間に、カフェなどの35件が自主的に新築・改装され、協定の内容を具現化したほか、駅前道路整備においては住民アンケートをもとに、事業主体である京都府と度重なる協議を行うことで、車道幅を狭くすることにより歩道拡幅を実現しました。また、夜間景観の創出については、専門家の監修のもと、砂浜バーの賑わいづくりの取組と連携し、各店舗の協力とも相まって、そぞろ歩きが楽しい夜の環



受賞おめでとうございます！



活動のプレゼンテーション

境を創出しました。これらの取組みと合わせ、宮津市による天橋立駅と駅前広場の改修により、駅前商店街との一体化、バリアフリー化が図られ、天橋立の玄関口に相応しい、質の高い和の空間が実現しました。

これらの取組みは、平成18年に地元と京都造形芸術大学が町づくり協定を結んだことから始まりました。地道な取り組みが、平成25年の京都府による「海の京都構想」において、天橋立地区が宮津市の戦略拠点となったこととマッチし、行政との緊密な連携を生み、活動に勢いを付け、様々な取組みを連鎖させました。また、地元商店街での社会体験を通じ、小学生に地域の成り立ちを伝える取組みは、多くの地域で課題となる次世代のまちづくりの担い手を育てるものとなっています。



パネルディスカッション